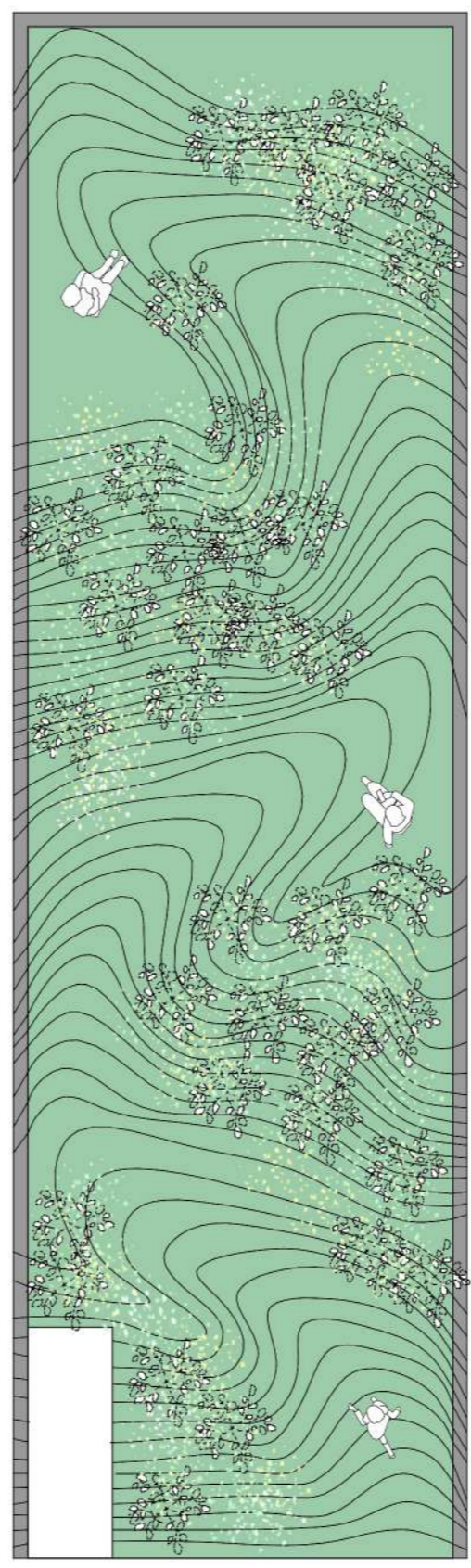


City pocket



配置図兼屋上平面図 1:75

「すきま」に「スキマ」を作る

まち中に多く存在する「すきま」

それら、「すきま」を町並みにとって良くないと人は判断し、「すきま」を埋める「+の建築」を行う。

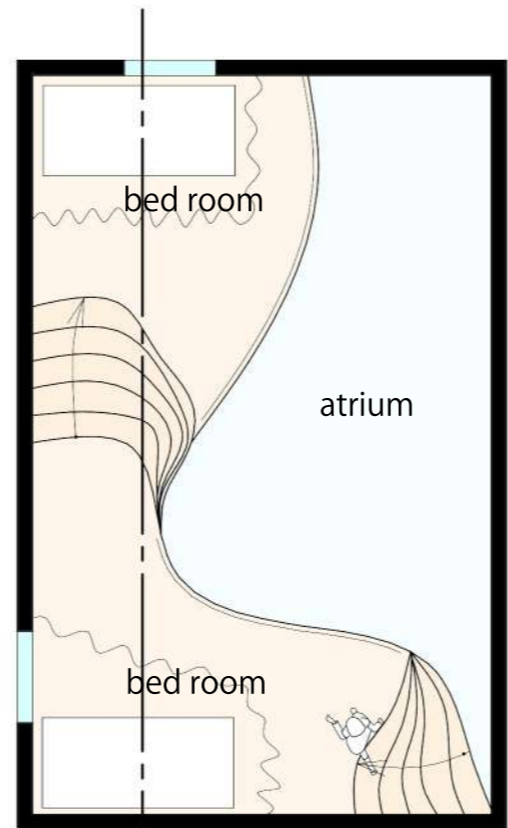
そこで私は、「すきま」を完全に埋める「+の建築」ではなく、あえてスキマを作る「-の建築」を提案する。

「すきま」に「スキマ」を作る「-の建築」というのは、もともとまちの人々が立ち寄らず、あまり活用されることがなかった「すきま」に、人が入ることができる「スキマ」、つまり、人を吸い込むような建物を作ることである。

具体的に言うと、私は建物の屋根が階段になっている建築を提案する。もともと人が立ち寄ることがなかったまちの「すきま」に階段となっている屋根をまちに提供することで、ただ「すきま」を建物で埋める

「+の建築」では生まれることがなかった、まちに開いた、

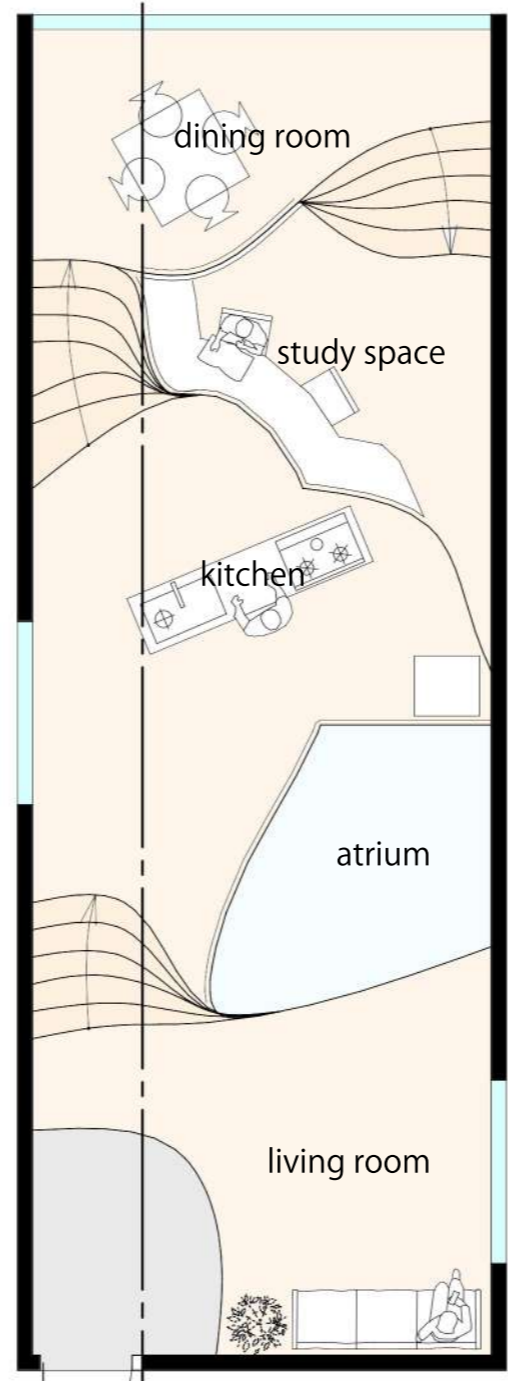
まちの人々を吸い込む、まちのポケットとも言える新たな空間が生まれる。



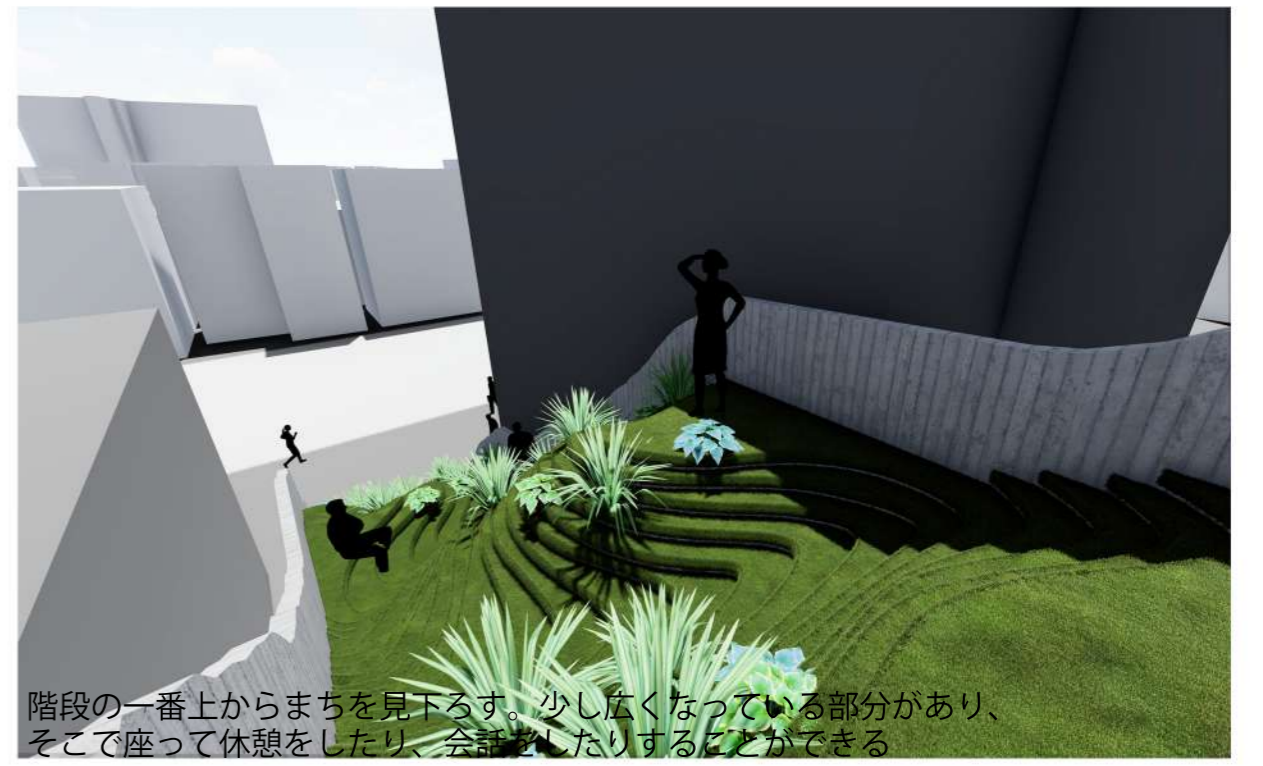
2階平面図 1:75



歩道から建物を見る。突然現れる緑の階段。まちに対し、大きなインパクトを与える。



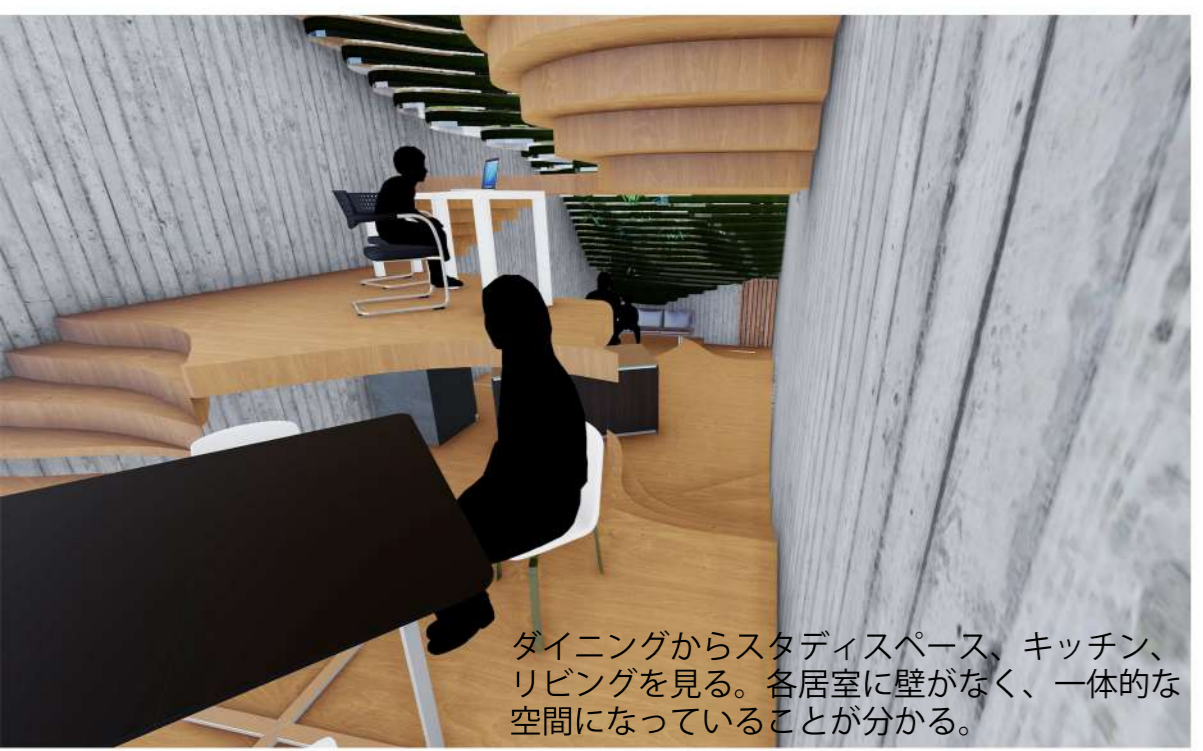
1階平面図 1:75



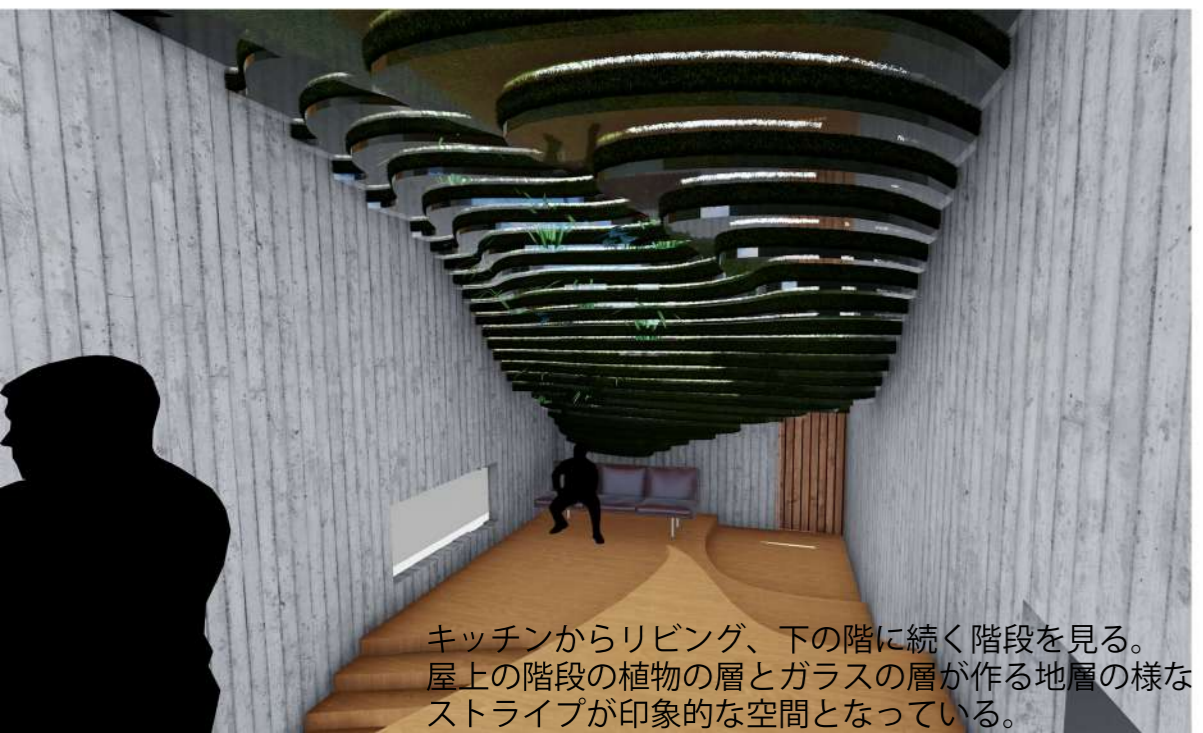
階段の一番上からまちを見下ろす。少し広がっている部分があり、そこで座って休憩をしたり、会話したりすることができる。



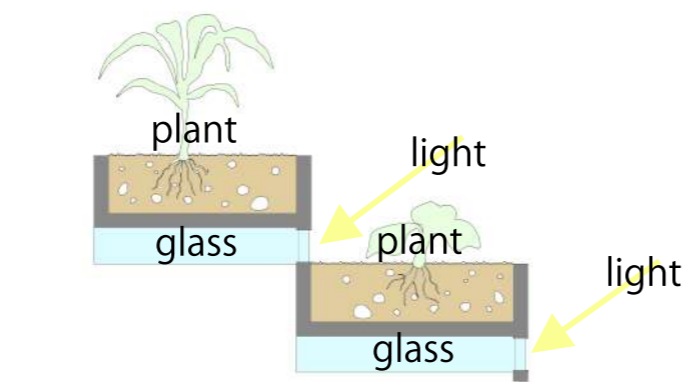
リビングからキッチン、ダイニング、スタディスペースを見る。各居室は壁などで仕切ることせず、段差で仕切ることとしている。そうすることで各空間が緩やかにつながることができる。



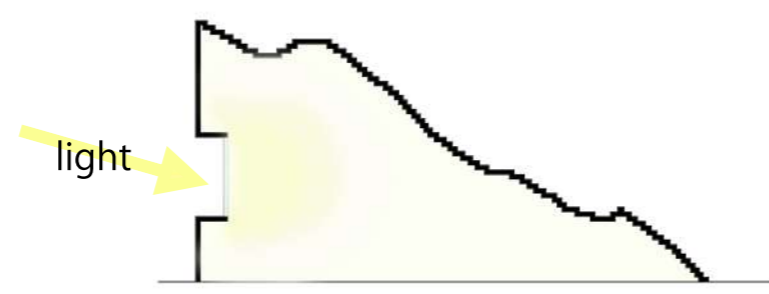
ダイニングからスタディスペース、キッチン、リビングを見る。各居室に壁がなく、一体的な空間になっていることが分かる。



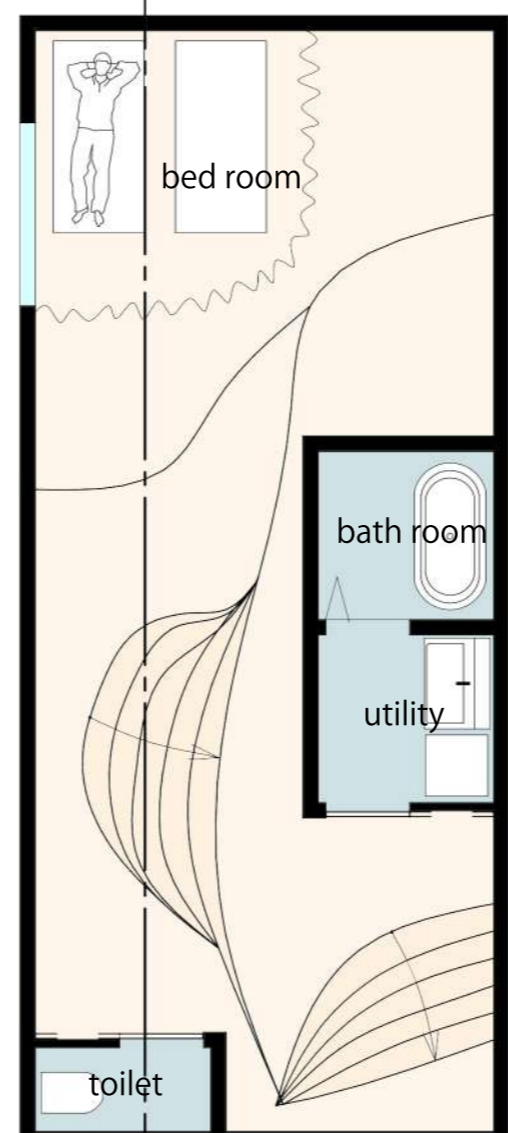
キッチンからリビング、下の階に続く階段を見る。屋上の階段の植物の層とガラスの層が作る地層の様なストライプが印象的な空間となっている。



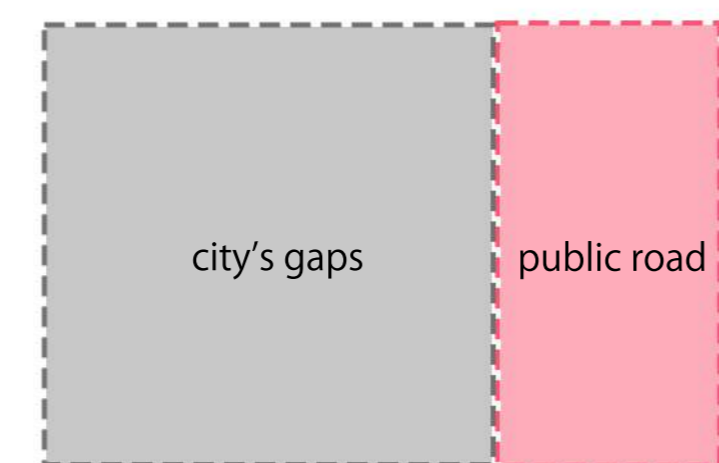
光を取り入れるために階段の段にガラスを差し込み、光を取り入れながら、地層のようなファサードを作る。そして、まちに彩りを与えるために植物を各段に植栽する。



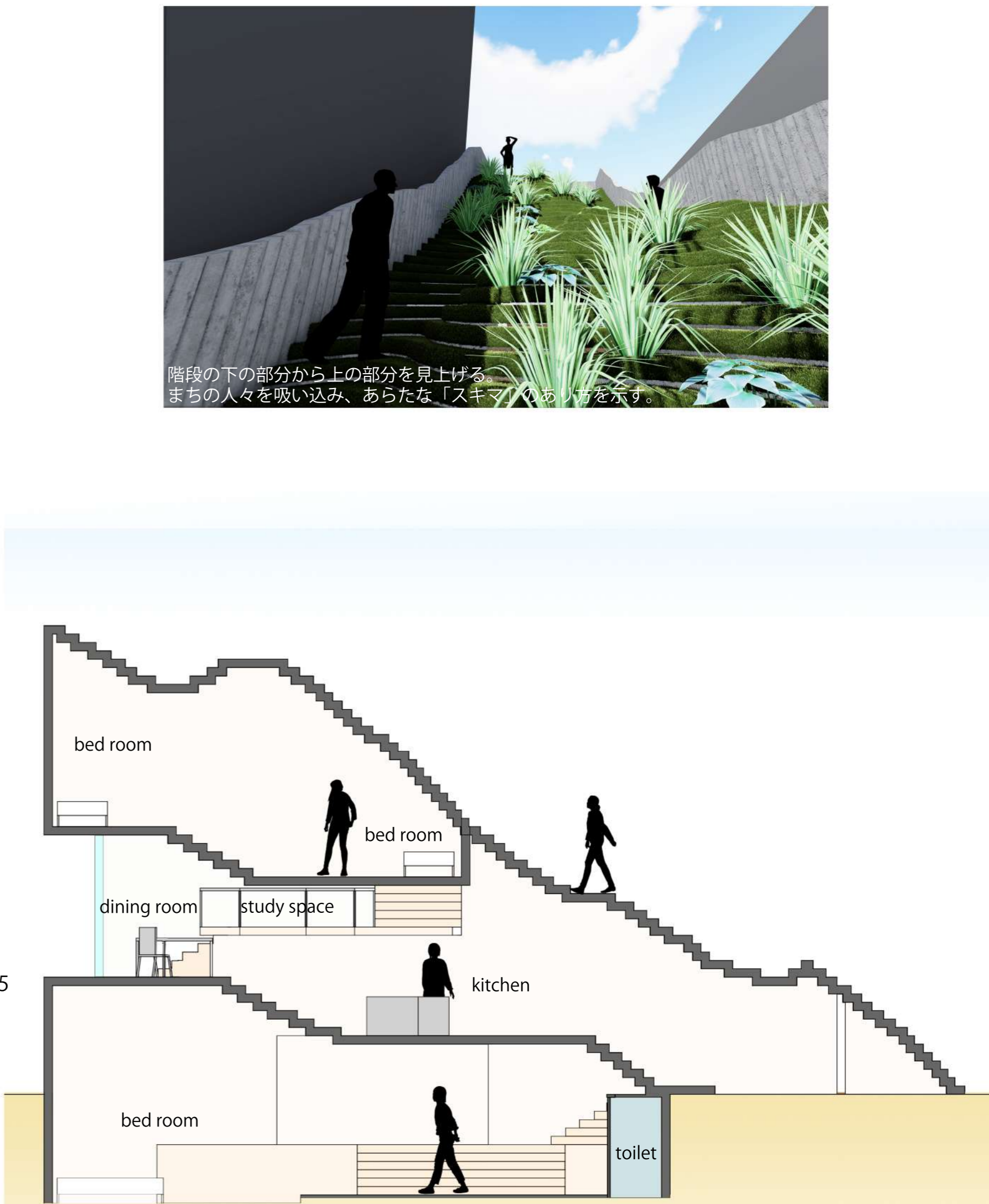
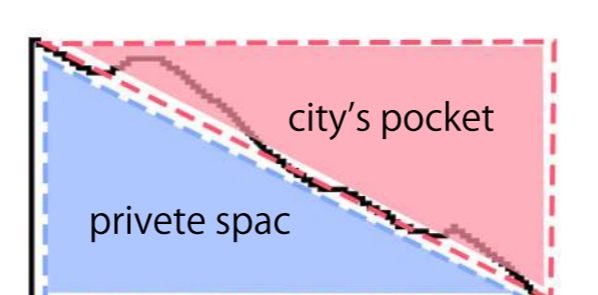
光が入りにくい建物後ろ側には大きなへこみを作る。そうすることによって光を取り入れることができ、狭い敷地内での採光の工夫とする



地階平面図 1:75



立ち寄ることがなかったまちの「すきま」大きな階段を置くことでまちの人々を吸い込む「スキマ」が出来上がる



断面図 1:75